

NIE で新聞に親しもう

～読解表現力を高めるNIE～

三木市立別所小学校 校長 小紫 達矢
教諭 下田 広行

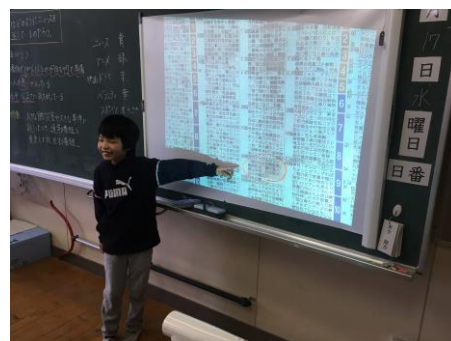
1 はじめに

NIEの取り組みは、今年度で2年目である。テーマは、「NIEで新聞に親しもう ～読解表現力を高めるNIE～」である。本校では昨年度、新聞スクラップ活動を通して、社会と自分自身とのつながりを模索する活動を行った。この活動では、新聞を社会と自分自身とを結びつける「窓口」と位置づけ、児童の興味関心を高めていくことができた。また、新聞の構成を知ることによって、人に分かりやすく伝えるために、5W1Hを意識して文章を書いたり、構成やレイアウトを考えたりする児童も増えてきた。本年度は、国語科や総合的な学習にとどまらず、幅広く他の教科への実践を試み、テーマに迫る学習をしていきたいと考えた。

2 実践の概要

① 朝のNIEスピーチ（学級活動）

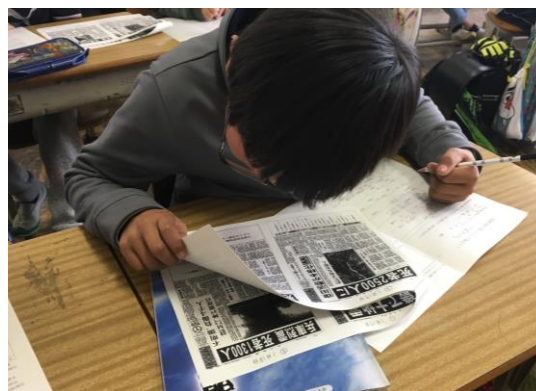
前年度に引き続き、「新聞ウオッチング」の活動を行ってきた。新聞を読んで、好きな記事を切り抜き、スクラップにする。それを用紙に貼り付け、その記事を読んだ感想を書く活動に取り組んだ。主に家庭学習として児童に取り組ませた。週に1度程度の取り組みであったが、これまであまり新聞を読まなかった児童も、これを機会として新聞を読む時間が増えた児童が多くなった。また、他の人にも自分の選んだ記事について知ってもらうために、朝の会においてスピーチを取り入れた。様々な社会問題について触れることができ、興味をもって児童が聞くことができた。



《スピーチの様子》

② キャッチフレーズを考えよう！（国語科）

国語科「千年の釘にいどむ」の学習において、「誰もがその本を読んでみたくなるようなポップ」を作ることをテーマにポップ作りを開始した。ポップの中にあるキャッチフレーズについて、様々な新聞の中にあるキャッチフレーズの工夫についてその秘密を探ったりする活動を行った。体言止めになっていることや俳句のようにリズムよく作られているキャッチフレーズがあることなど、様々なタイプがあり、それぞれに効果の違いがあることにも気づくことができポップ作りに生かすことができた。



《新聞記事からキャッチフレーズを探している様子》

③ テレビ欄には秘密が隠れている！

(社会科)

社会科の「情報化社会とわたしたち」で、テレビ欄の秘密を探る活動を行った。新聞のテレビ欄を使い、「ニュース」、「ドラマ」、「スポーツ」などを色鉛筆で色をつけながら仲間分けをし、それを見ながら各班でその秘密について考えた。テレビ欄をじっくり見てみると、「ニュースが最も多い」ことや、「朝はニュースや情報番組ばかり」、「平日より休日の方がバラエティ番組は多い」など、テレビ番組が視聴者のニーズに合わせて作られていたことに気づくことができた。



《テレビ欄の秘密》

④ 台風と天気の変化について調べよう！

(理科)

新聞の天気図を活用し、台風や雲の動きを学習した。導入では、新聞には毎日、天気図が掲載されていることや事細かに分かりやすく天気の変化について載っていることを確認した。また、毎日の天気図を資料にし、台風の進み方や台風による天気の変化について読み取った。雲や台風の動きの経過を知ることや記録として残すことができ、授業を進めていく上で大変効果的な資料となった。



《天気図を活用した授業》

⑤ 新聞社の記者派遣（総合的な学習）

朝日新聞社神戸総局の高松浩志記者をお招きして、テレビやインターネットと新聞を比較して「正しく伝えるのが新聞」「共感を伝えるのが新聞」といった「新聞の良さ」について教えていただいた。また、「新聞ができるまで」についても映像を交えながら教えていただき、教科書には載っていない新聞記者の生の声を聞くことで、子どもたちは興味津々で話を聞くことができた。子どもたちは、新聞1部の中に、本1冊分程の情報量が詰まっているという話を聞いて驚いているのが印象的だった。



《記者に学ぶ》

⑥ 睡眠の大切さについて知ろう！（保健）

保健の学習において、睡眠不足が体や脳にどのような悪影響を及ぼすのかについて新聞記事を活用した学習を行った。神戸新聞に掲載されていた睡眠についての記事をもとに、「睡眠不足チェック表」を記入し、まずは自らの睡眠状況を把握した。記事には、睡眠不足はいらいらしたり、やる気がなくなったりすることや記憶力や集中力が低下することを引き起こすといった内容が載っていた。また、統計データをもとに、学力や体力が低下していくことにも触れた。新聞記事を活用したことで説得力が増し、睡眠に気を付けていこうという意識をもつことができた。この新聞を活用した授業の様子は、産経新聞に掲載され、自分たちが新聞に載るといった貴重な経験となった。



《保健授業の様子》

⑦ 阪神淡路大震災について知ろう！（道徳）

阪神淡路大震災の翌日から1週間の新聞を活用し、防災学習をした。新聞記事の写真を見るだけで、当時の緊迫した様子や甚大な被害があったことがよく分かった。見出しに目を向けてみると、日に日に犠牲になった方が増えていく様子を知ることができ、子どもたちは地震の大きさ、悲惨さを改めて強く感じる事ができた。また、新聞は、報道展示場に何年も前の情報をきちんと保存していることを伝え、他のメデ

ィアとの違いなどにも目を向けさせることができた。



《当時の新聞から考えよう①》



《当時の新聞から考えよう②》

★番外編…新聞マンに変身！（体育科）

体育科の表現運動で「新聞マンに変身！」に取り組んだ。「台風巻き込まれて風に舞う新聞マン」「雑巾のようにギュッとしぼられた新聞マン」「水にふわふわと浮く新聞マン」など教師が新聞を操作し、自分なりに動きを想像しながら新聞マンになりきって、体全体で大きく表現したり、チームで役割を分担して表現したりして、楽しく活動できた。最初は、ほとんどの児童が恥ずかしがって動きが小さくなっていたが、体全体を使って表現している児童を全体の場で取り上げたり、教師が見本を見せたりしながら動きの幅を広げ、大きく表現していくことの楽しさを実感することができた。新聞を活用することで子どもたちの様々な動きを引き出すことができた。



《新聞マンに変身！》

3 成果と課題(◎と□)

◎国語科を中心にN I Eの実践を行ってきたが、他教科での実践をすることで幅広く活用することができ、児童の興味を引き出すよい資料となった。

◎阪神淡路大震災の当時の記事に触れることができ、緊迫した様子や甚大な被害があったことなど地震の悲惨さを、新聞を通して感じることができた。

◎朝のスピーチタイムを設けたことで、一つの新聞記事について共有し、児童同士で話し合ったり、相談しあったりする姿が見られ、社会への関心が高まってきた。

◎新聞記者の方の話を聞くことで、新聞に対する興味が広がったように感じる。新聞記事の書き方については、事後の学習にも生かすことができた。

□大人向けの新聞は小学生にとっては難しいように感じた。どのような教材を選択し、どのように活用するのかは、教師の十分な教材研究が必要だと感じた。

□学校の新聞コーナーには、各学年必要がある時はよく活用していたが、そうでない時はほとんど新聞を見る児童はいなかった。児童が立ち止まって新聞を読みたくなる工夫があればよかったと感じる。

□年間を通して、継続的に活動をする事ができなかった。年間を通した活動ができていれば、より新聞を身近なものとして感じさせることはできていたように感じる。

□小学生にとって読めない漢字や文字が小さいといったサイズが問題となる。拡大したり、ルビをふったりと教師側の工夫が必要であった。

4 おわりに

今年度は2年目のN I Eの取り組みで、昨年度の積み重ねができるよう、他教科でも新聞を活用できるよう学習内容を幅広く計画した。実践をしていく中で、朝の会や授業中などに時事的な話題を出しても、反応してくるようになり、政治や社会の動きに興味をもつ子が増えた。

授業作りにおいて、新聞はあくまでも、手段であり、ツールである。それを使うことが目的であってはならないと感じた。新聞を使って授業をする際には、ただやみくもに新聞を使うのではなく、子どもたちにどんな力をつけさせたいか、どんな活動にしていきたいかなど、学習の見通しや目標をより明確にしていく必要があると感じた。また、新聞を使うことは、新学習指導要領にも新たに明記されている。大人の新聞離れが鑑みられていることもあるが、子どものうちから新聞に触れていくことの大切さや新聞の内容や構成から社会問題に触れていくことなど新聞の活用方法は多面的である。N I Eを教科の枠を超えた横断的・総合的な学習としてとらえ、どんな教科で新聞を使った学習ができるかを学習指導要領や指導内容などを考慮しながらカリキュラム・マネジメントを行い検討していく必要があると感じた。

今後も、自分と社会をつなぐ生きた教材である新聞を活用して、子どもたちの社会への興味関心を高めていきたい。